	 〔丁業高等	 事門学校	開講年度	令和05年度 (2	2023年度)	捋		Readi	 na II		
		- VI - L - L - L - L - L - L - L - L - L -	או די דייינויו	1 12 11 00 F/X (2	i /× /	در <sub>ا</sub>	×/N	ı. todar	·· <del>· 9 ···</del>		
科目番号	CID+IX	00020			科目区分		一般/必	 修			
授業形態		授業			単位の種別と	 単位数	履修単位				
開設学科		電気工学科	4		対象学年	T 122X	1				
開設期		後期			週時間数						
教科書/教	 !材	i	English Commun	nication I	1						
担当教員		長橋 雅俊	<b>J</b>								
到達目標	<u> </u>	1									
【目的】 ・習熟度な ・実社会』 を身に付け	や授業の進展 ひグロール ける。	度に応じて、E バルエンジニフ	日常的に身近な話是7を志す学生として	題から社会的に内容 て、主体的な英文の	の深い話題まで 読解法や、その	で幅広く)学び方に	扱い、英文 取り組んて	z読解の技 ご、自らの	技能向上を目指す。 )意見として伝えられる知識		
ルーブリ	ノック							— .	1		
		<del></del>	りな到達レベルの[				)到達レベノ				
評価項目:	l	上理角	で扱った英文を8割 解でき、既習の語彙 知識として十分にないる。	彙・ 度理解でき、	度理解でき、既習の語彙・ 文法知識として定着してい る。		授業で扱った英文を6割程 度理解でき、既習の語彙・ 文法知識をある程度定着し ている。		授業で扱った英文の理解が 6割を下回り、語彙・文法 知識として定着していない。		
評価項目2	2	他者を論を導	りで示された課題で との討議に貢献し、 尊き出せる。	. 結   他者との討議 題点を共有で	他者との討議に参加し、問 題点を共有できる。		授業内で示された課題で、 他者の討議したことを理解 できる。		授業内で示された課題を、 他者と討議できない。(課 題を十分に理解できない)		
評価項目:	3	定期ラ 題等の ある。	テスト、小テスト、 D合計点が80点以	、課 定期テスト、 上で 題等の合計点 ある。	小テスト、課 が70点以上で	定期テスト、小テスト、 題等の合計点が60点以上 ある。		スト、課点以上で	定期テスト、小テスト、課題等の合計点が60点未満である。		
		頁目との関係	系								
	育目標 B3										
教育方法	去等										
授業の進む	か方・方法	む。 0. 小デ 1. 授業 成を理解し 2. 時限 る。 3. 音読	くト:前の時限で打けっていく。 大画で定めた所定の していく。 ごとに扱った英文の および再話活動など	Roったパートからの DLesson、Section D中で、文法構造の どを通じて、扱った	復習状況を確認 に基づき、英文 面で特に注意す 英文の理解を深	はする。 文の読解方 べき文を そめるとと	法を学ぶ。 分析し、自 もに、自身	語彙、句  ら運用可  の語彙・	知識や表現力として取り込可、節ごとの発音や意味、構 可、節ごとの発音や意味、構 では表現法として定着を図 文法知識として取り込む。		
注意点	3.14 E2/	・本科目の  ・受講者の	)成績は定期試験 <i>0</i>	h Communication 市するため、保存用 D成績のみならず、 考慮し、適宜授業の	小テスト・課題	により普	段からの目	到750g すること。 1学自習の	ること。 D成果も重視する。		
		<u> 多上の区分</u>				++ r <del>t-</del>		T- =	マタグトのナフ 地里 に トフセン		
☑ アクテ	・ィブラーニ	<u>- ンク</u>	☑ ICT 利用		□ 遠隔授業党	以心		□ 実	務経験のある教員による授業		
+∞ <del>***</del> = 1 =											
授業計画	<u> </u>	週				\B ->" L		<del></del>			
		1 YE 2	受業内容 オリエンテーション シラバス配布、教材		の確認	前期と	の変更点		明を通した授業の進め方、毎 内束ごとを理解できる。		
<b>~~ to</b>			esson 10, Mode			マイク		チックにこ	ついて学ぶ、英語プレゼンテ		
		3週 L	esson 10, Model		ーショ	ファストファッションについて学ぶ、英語 ーションでの表現方法 2					
	3rdQ	4週 L	esson 10, Activi		成						
			esson 6, Section		分詞		ついて学ぶ、現在分詞と過去				
			esson 6, Section		構文、	三代氏の経験・気づきを学ぶ、分詞構文、I 構文、ほか バリアフリー社会への認識を深める、理由?					
後期			esson 6, Review	e, etc.	現法						
			中間試験			これまでの学習内容を確認し、成果を発揮できる。					
		9週 2	答案返却・中間試験	験のおさらい・講評	!		間試験の国				
		10週 L	esson 7, Section	n 1 & 2		副詞w	here, who	en ほか	-チームについて学ぶ、関係		
		1		1384		難民σ	抱える困難	誰・対処な	を学ぶ、関係副詞why、比較		
	4thQ	11週 L	esson 7, Section	1541		の表現		NOT 11	·		
	4thQ	12週 L	esson 7, Review	/ & Retell, Practice	e, etc.	難民の表現	)置かれた! !法		+生社会について学ぶ、勧誘 		
	4thQ	12週 L 13週 L	·	/ & Retell, Practice	e, etc.	難民の の表現 分身口	)置かれた{ !法 ]ボットのi	己事を読む	·		

		15ì	周 L	esson 8, Rev	Review & Retell, Practice, etc.		未来の技術や製品について考えを述べる表現法				
		16ì	<b>周</b>	· 明末試験		これまでの学習内容を確認し		、成果を発揮	できる。		
モデルコ	アカリコ	<u> </u>	ラムのき	学習内容と	到達	目標					
分類 分野 学習内			学習内容	3	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週		
						日常生活や身近な話 りとした発音で話さ きる。	常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっき とした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることがで そる。			2	後1,後2,後 3,後4,後 5,後6,後 9,後10,後 11,後12,後 13,後14,後 16
		文・社会 学	英語			日常生活や身近な話 現を用いて英語で話	話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表 話すことができる。			2	後4,後7,後 12,後15
基礎的能力	人文・社 科学			英語運用 力の基礎 め		説明や物語などの文 ように音読ができる	の文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わる きる。			2	後2,後3,後 5,後6,後 10,後11,後 13,後14
						平易な英語で書かれ を読み取ることがで		その概要を把	2握し必要な情報	2	後1,後2,後 3,後5,後 6,後8,後 9,後10,後 11,後13,後 14,後16
						日常生活や身近な話 100語程度のまとま	話題に関して、自分の意見や感想を整理し、 まりのある文章を英語で書くことができる。			2	後4,後7,後 8,後12,後 16
						母国以外の言語や文 面で積極的にコミュ	1	後4,後7,後 12,後16			
評価割合											
Ē.		āī	試験		小テ	スト	課題	授業	活動	合計	
総合評価割合		6	60		20		10	10		100	
基礎的能力		6	60		20		10	10		100	
専門的能力		0	0		0		0	0		0	
分野横断的	分野横断的能力		0		0		0	0		0	